

---

# 紅き伝説

レッド

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

紅き伝説

### 【Zコード】

Z0161Z

### 【作者名】

レッド

### 【あらすじ】

火災現場で死ぬ寸前に少女と出会い異世界へ

しかし能力もよくワラカナイ主人公!  
どうなるの~

そして運命の女神に愛される主人公の運命は~!

## プロローグ

俺の名前は高橋 俊。年は23才

さていまの状態を説明しよう。

高卒と同時に消防士になり何度目かのビルの火災現場。

別に危険な現場ではなかつた。慣れたものだつた。

命綱を付け、先輩と一緒に逃げ遅れが居ないか屋内に侵入したまでは良かつた。

火災は大したことなく煙が凄いだけだつた。そのため排煙をするべく先輩と離れ窓を開けに行つたのが思えば俺の運の尽き。いや始まりか……

先輩と離れ排煙をするべく窓を開けに行つたらまだ確認していない部屋を発見。  
逃げ遅れが居ないか中を開けてみる。

部屋を探しても人は居ないか…窓も無いし部屋を出ようとして俺は目を疑つた。

扉が無い！

おかしい、それにさつきはうすらだつた煙が濃くなり周りが見え  
ない！――――！

なぜだ！ やばい！

壁伝いは歩くも出口は男一つかない

しまつた呼吸器の残量があと僅かだ！！

呼吸器が渋くなつてきた

もうダメか……思えばいい人生だったのだろうか。

そういうば俺の周りは何時も大変だつたな

学生時代は、俺は成績は普通より上だったのに何時もクラスで悪く、  
教師から怒られ消防学校でも同じ

他にもいろいろあつたがもう呼吸器がやばいな

そんな時俺の前に花びらが

「サ……ク……ラ……？」

「何でここに?」

そして目の前に1人の女の子

いや少女か

さつきは居なかつたのになぜ?

少女「生きたい？」

ああ…………幻か…………

少女「生きたい？」

も「やばい」な呼吸器の計器も〇を指してくる。息もできない。

まあ幻にこんなの言つても仕方ないかけど

「ああ生きたい、そして知らない世界を旅、いや冒険してみたかつたよ」

そして、俺の意識は闇に落ちた……

「気づくとそこには先の見えない暗闇だった……」

「あれ？俺、死んだはずだよな？」

「いえ、まだ死んでおりません。」

「！？」

突然の声に後ろを振り返ると先ほどの少女が立っていた。  
いや美少女かい今まで見たことない美少女だよ。

「あなたはまだ死んでおりません。あの時あなたは偶然にも神の領域に足を踏み入れてしまいました。」

「神の領域？あの扉が」

「ええそうです。本来なら入れないのにあなたは入ってしまった。  
それは世界のバランスを崩してしまつと言つこと、なのあなたは  
今この場所にいます。」

「もとの場所に戻れないのか?」

「不可能です。あの世界でのあなたは死にました。そして、神の領域  
に入ったあなたには別な世界に異世界に行つてもらいます。それ  
が世界のバランスを保つためです。」

「はあ、バランスね……」

「そつバランスです。しかし、そのまま 異世界に行くのはあまり  
に不憫だと神々が判断いたしました。」

「はあ

「そこでこれです」

少女は二つの間にか白い箱を突き出したいや血歎氣な顔で出されて  
もどつてしまふと……

「「」の中に異世界で役立ついろいろな能力が入っております。」

「はあ」

「一回引いて中のボールを一つお取りください。」

言われるまま箱に手を入れ中のボールを出す。

黒いボールが出てきた。

「なるほど、やはりあなたは面白い人ですね。では異世界に行つて貰います。」

「えつー！能力の説明は？」

体が白く粒子になつていく

「神々の決定では能力の説明は伝えてはならぬと決まつてありますので」

「えええ～っ……！」

異世界行つて能力が分からなくてどうしようと  
しかし、もう体のほとんどが無くなっている。

「じゃあ君の名前だけでも！」

「運命の女神と他の神々からは呼ばれております。ではまた。」

そうして俺は異世界に旅立った。

運命の女神「やはりあの人は面白い。神の領域に入り、そして異世界での能力も…………うふつ初めて人を好きになりましたわ。高橋

俊……面白い人……………あの方なら私の夫に相応しいかも……………  
神と人、結婚してならないと言つ決まりはないのだから……………異  
世界に行つても私を楽しませてね俊……あと能力からの他に私からの  
餞別よ。」

そう言つと女神は一振りの刀を取り出した。

「さあ、あなたはこれを使いこなせるかしら?」

そう言つと刀が光に包まれて消えてた。

「さあ行つてらっしゃい俊!力を付けて神の領域に達しなさい。私は応援してるわよ。」

運命の女神の独り言は闇に消えた……………

2話（後書き）

駄目文ですね

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0161z/>

---

紅き伝説

2011年11月30日22時47分発行